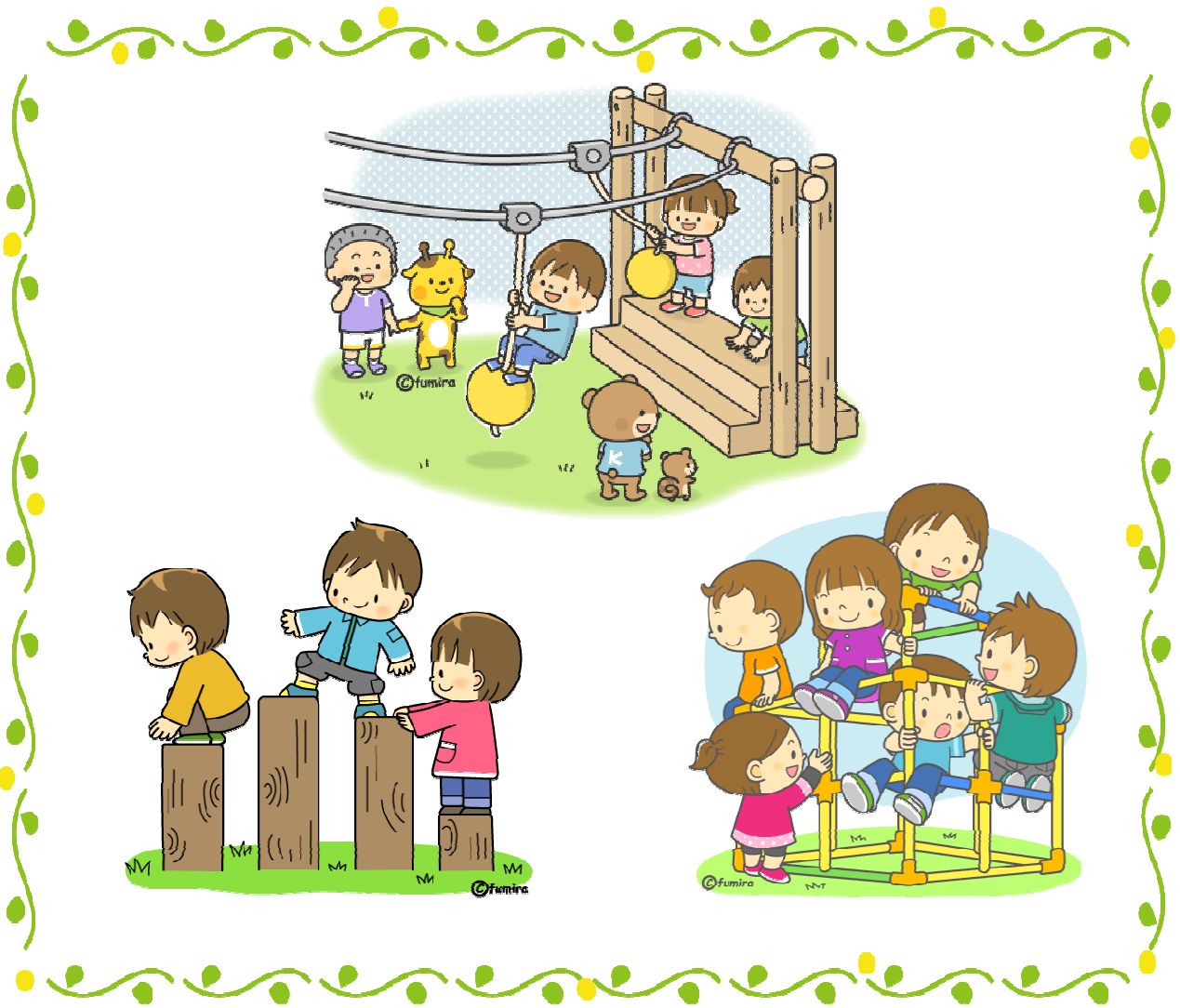


# 子育て支援プログラム・幼児期編





# 目 次

1. 子育て支援プログラム・幼児期編作成にあたって……………	1
2. 《実践プログラム》 子育て支援プログラム・幼児期編……………	2
3. 事前準備……………	6
4. プログラムの進め方……………	7
5. 「子育て支援プログラム・幼児期編」パワーポイント……………	8
◆ワークシート……………	28
6. モデル教室実施について……………	29

# 1. 子育て支援プログラム・幼児期編作成にあたって

子育て支援プログラム・幼児期編アドバイザー  
奈良佐保短期大学 石田裕子

親の育児に関する悩みは、子どもの発達とともに、内容が変化していきます。

これまでは「世話をしてあげる」存在であった子どもが、1歳半頃になると自分の意志を示し、親の言うことに対して「イヤ」だと言ったり、「自分で」といって手を貸されることを拒否するようになります。なにかにつけて「かんしゃく」をおこすこともあります。

これは、いわゆる、自我が芽生えて生じる第一次反抗期であり、発達にとっては重要なことですが、泣いたり、だだをこねたり、激しい反応が毎回起こると、うんざりする親も多いようです。時に、自分の思いどおりにならない子どもに対して「しつけ」と称して、叩くなどの暴力、ひどく罵るなど虐待を引き起こしてしまうこともあります。一方で子どもの意思を尊重するあまり、社会的なルールを教えることができない親もいます。

どちらも子どもの心理・発達そしていずれ社会に出て行くことを理解し、それに対して自分自身を見つめることで、子どもへの対応が変わるかもしれません。子どものする「困った行動」は子どもの発達にとって必要だったり、仕方がなかったりします。

「子どもの人格と親の人格は別の物である」ということ理解していただいて子どもへの対応を考えていただくことが目的になります。

またプログラムの終わりには「今までの自分の対応が間違っていた」とがっかりされる親、「頭ではわかっているのになかなかできない」と伝えてくださる親もいますが、自分を責めないようにしてください。子どもの気質、親の性格は様々で子育てには正解はないのかもしれませんが、一方的に押しつけるのではなく、こんな方法もあるよということを知っていただき、子育て支援に活かしていただければと思います。



## 2. 《実践プログラム》 子育て支援プログラム・幼児期編

目 的	・ 第一次反抗期である1歳半～2歳頃を感じる「子育ての壁」を乗り越えるため、この時期の子どもや子育てについての基礎的な知識を習得し、また、同年代の子をもつ親と情報共有することで子育て不安の軽減につなげる
日 程	2時間
対 象 者	1歳半～2歳頃の子をもつ親
定 員	20～30人
スタッフの数	進行役 1人

### <教室内容>

<b>① オリエンテーション</b>	
20分	<p><b>&lt;導入 セミナーの内容、講師紹介など&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セミナーの内容、講師自己紹介</li> <li>・ 地域子育て支援拠点についての説明</li> <li>・ 市町村の子育て支援制度の紹介</li> </ul>
<b>② 2歳「イヤイヤ期」を考えてみよう!!</b>	
80分	<p><b>&lt;2歳「イヤイヤ期」についての知識とその対処法を学ぶ&gt;</b></p> <p>(パワーポイントを使って進める)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次反抗期(2歳「イヤイヤ期」)について</li> <li>・ 2歳児の心の動き</li> <li>・ 他のママに聞いてみよう! &lt;ワーク①「我が子のイヤイヤ」&gt;</li> <li>・ 具体的な対処法 &lt;ワーク②「あなたが母親ならどのような声かけをしますか」&gt;</li> <li>・ してはいけない対処法</li> <li>・ 怒りを静める具体的な方法</li> </ul>
<b>③ 我が子へのメッセージ</b>	
20分	<p><b>&lt;子どもへの思いを、メッセージカードに書くことで再認識してもらう&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の子どものいいところを書く</li> <li>・ 子どもが生まれたときの思いを書く</li> <li>・ 写真を持参してもらって、カードに貼ってもよい</li> </ul>



ページによっては、説明が長いので、あらかじめ読んでおいて、ご自分の言葉で伝えてみてください。ここでは内容に含まれる言葉について説明します。

### 【愛着（アタッチメント）】

生後半年を過ぎるころから、特定の大人との間に形成される情緒的な絆のことを言います。他の人が抱き上げて泣き止まないのに、その特定の大人に抱き上げられると泣き止む、なにか怖いことがあるとしがみつくと等の行動を愛着行動と呼びます。

赤ちゃんが泣く、大人が世話をして不快な状態を取り除くという繰り返しや、笑ったら笑い返すなどの情緒のやりとりで形成されていきます。

愛着関係は安定したもの、そうでないものなどいくつかタイプがありますが、母親だけではなく、周りにいる大人、（父親、祖父母、保育士等）と形成します。

### 【自己意識 自我の芽生え】

自分に対する意識というものは生まれながらに持っているものではありません。まだ自分や他の人は違う存在であるということに気付かぬままに、周囲の物や人とのやり取りを行います。それを通じて、自他の区別をしていきます。また1歳3か月を過ぎると多くの子どもは歩行が完成し、自由に移動できるようになります。

また手先の細かい動きはまだですが、さまざまな動きができるようになります。それにより、自分でやりたいという気持ちを持つようになります。

そして自分のやりたいことを制限されることによって、自分の欲求に気付き、自分の意思を伝えるようになります。また物に対しても所有意識を示すようになります。そこで、同じような発達過程にいる子どもと物を巡ってトラブルになることがあります。

### 【探索活動】

物に直接触ったり、口に入れたりして、それが何であるか確かめる行動です。子どもによっては初めて見る物に興味を示し、探索活動に入りますが、慎重な子どもは、安心してからではないと探索活動に入れません。不安な気持ちを愛着対象である大人のそばに行き、なぐさめ、そして探索活動に入ります。愛着関係がしっかり形成されると探索活動も盛んになるといわれています。

また、探索活動は時によって、危険であったり、大人には触って欲しくないものを平気で触ったり口に入れたりします。大人にとってはいたずらと捉えられること

が多くありますが、認知能力の発達、自己概念の形成、言語の発達の基盤となると考えられている大切な活動であることを伝えましょう。

《引用及び参考文献》

森上史郎 柏女霊峰編 保育用語辞典 ミネルヴァ書房 p 70「探索活動」p 297  
「自我意識の芽生え」



### ワーク①の目的

親にとっての「困った」を話すことで、「それはたいへんね」という共感や「自分だけではない」という安心感、そして異年齢（月例）の子どもの話を聞くことで、発達の見通しを持つことができます。

なによりも同じような悩みを率直に話せることが、保護者の方にとっては良いようです。

4～5人程度のグループ分けを行い、自己紹介（子どもの年齢やきょうだいの有無、場合によっては住んでいる地域等）して、各自の「困った」を発表してもらいます。できるだけ明るい雰囲気、ワークを開始します。

テーブルを回って、話が停滞しているグループに入っていく、話を振っていきましょう。話している様子によって、15分前後時間をとってください。

### ワーク②（どのように声を掛けますか）の目的

ワークによって、記述される内容が必ずしも実際の行動と一致しないこともあると思われれます。

講演者が、「実は私の子どもが小さかった頃、『だからやってあげるっていったのに！』と怒ってしまったことがあります」等の話をすると、話を聞く人に親近感を持ってもらえるかもしれません。

身近に感じてもらった上で、自立と甘えの間を揺れ動く時期の子どもの心理を解説していきましょう。

### カード作りの目的

怒りを静めるためには、怒りの対象から一旦離れる必要があります。

水を飲む、数を数える（ゆっくりと10数える）等、別の行動をすることが有効です。

また、一人では何もできなかった赤ちゃんだったころの写真を眺めて、子どもが

産まれたばかりの時の気持ちを、できるだけゆっくり思い出すことで、怒りを収めることができるようになるためのツールです。まずは子どもへのメッセージをゆっくりとした気持ちで書くように促してみてください。

また何か作業をしながらだと自然にコミュニケーションがうまれます。引っ込み思案のお母さんにとっては、より話しやすい雰囲気になるようです。

お母さん同士のつながりができるように、場合によっては間に入ってつなげてみましょう。



### 個別の配慮が必要な場合

グループワークで、それぞれの「困った」を話しているときに、「自分の子どもの様子が他の子どもと違う」と感じるお母さんもいます。その後お母さんから自分の子どものことで、質問や、困り感を訴えられる等があるかもしれません。できるだけ個別にゆっくりと話を聞いてください。

経験上発達障害が疑われる子どもさんであると感じられることもあるかと思いますが、支援者がそれを告げてはいけません。お母さんの困った気持ちを聞くことで、気持ちに寄り添います。困っている行動の対処方法の相談先として専門機関を紹介することもできます。

また、個別に配慮が必要なお子さんの場合、他のお母さんたちの視線が厳しく、子どもの多く集まる場所に連れてくることを苦痛に感じている場合が少なくありません。子どものよいところを伝えて、「私たちは歓迎します、待っています」という姿勢を見せてください。

### 個人差について

発達の道筋は同じですが、発達には個人差があるということは大前提です。パワーポイントの中にもだいたいの目安で年齢や月齢が挙げてありますが、あくまでも目安です。平均ということは発達の早い子どももいれば、ゆっくりの子どももいるということを忘れないようにしましょう。

また、気質といってもって生まれた性質もまた個人差があります。同じ音を聞いても、ある子どもは驚いて泣くけれど、驚かない子ども泣かない子どももいます。

また、新しいものを見ても積極的に探索行動をする子どももいれば、探索行動をするのに時間がかかる子どももいる、といった気質によっても親にとって育てやすかったり、育てにくかったりすることがあることを理解しておきましょう。



### 3. 事前準備

準備物	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シールタイプの名札(ママ、赤ちゃん用を準備。ガムテープでも可。 記名は主催者側で)</li> <li>● 受付名簿</li> <li>● 筆記用具(人数分)</li> <li>● 掲示用の「今日のスケジュール」(模造紙・ホワイトボード等)</li> <li>● パワーポイント用機材(パソコン、プロジェクター、スクリーン等)</li> <li>● パワーポイントデータ&lt;「子育て支援プログラム幼児期編 ～イヤイヤ期をのりこえよう～」(奈良県作成)&gt;</li> <li>● メッセージカード作成用の材料</li> <li>● 太マジック(数色組)</li> <li>● アンケート用紙</li> <li>● 子ども用のおもちゃ、マット等</li> </ul>
-----	---

会場設営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホワイトボードなどに今日のスケジュール、メニューを掲示。</li> <li>● パワーポイント上映のためのパソコン等準備。</li> <li>● 必要備品、配付資料等用意。</li> <li>● 4～5人のグループに分かれて受講できるよう会場設営。</li> <li>● 子ども用のおもちゃ。別室で託児を行う場合は、部屋の設営。</li> </ul>
------	--

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参加者配布資料(パワーポイント資料、ワークシート)</li> <li>● 拠点紹介等のチラシ、リーフレットの配布</li> <li>● 振り返り用アンケート(最後に渡す)</li> </ul>
------	---

#### ■ 参加者受け入れ

受付	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受付</li> <li>・ 名札を渡す</li> <li>・ 資料の配布</li> </ul>
<p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもはママと一緒にでも、別室で託児でも可。</li> <li>・ 親子一緒に受講する場合は、ママが受講しやすいよう、スタッフやボランティアがサポートする。</li> </ul>	



## 4. プログラムの進め方(所要時間 2時間)

### ①オリエンテーション (20分)

時間	進行内容
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受付後、好きな席に座る。</li> <li>・セミナーの内容、講師自己紹介</li> <li>・本日の講師、拠点担当者、スタッフの紹介</li> <li>・地域子育て支援拠点についての説明</li> <li>・スケジュールを見せながら、講座の流れを説明</li> <li>・配布物説明</li> <li>・アンケート記入の依頼</li> </ul>

### ②2歳「イヤイヤ期」を考えてみよう!! (80分)

準備物	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パワーポイント上映用機材 (パソコン、プロジェクター、スクリーン等)</li> <li>● 進行役用 シナリオ「イヤイヤ期をのりこえよう」</li> </ul>
-----	---

時間	進行内容
80分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント「イヤイヤ期をのりこえよう」を使い講義。</li> <li>・手引きP8～27にシナリオ掲載。</li> <li>・★でクリックしながら、シナリオに沿って進める。</li> <li>・パワーポイントP6「我が子のイヤイヤ」はグループワーク。まずは各自でワークシートに記入してもらい、進行役が4～5名のグループにしていく。 グループ内で参加者自己紹介をして話し、場合によっては発表してもらう。</li> <li>・パワーポイントP9「あなたが母親ならどのように子どもに声かけをしますか」もワーク。ワークシート記入後数人に発表してもらう。</li> </ul>

### ③我が子へのメッセージ (20分)

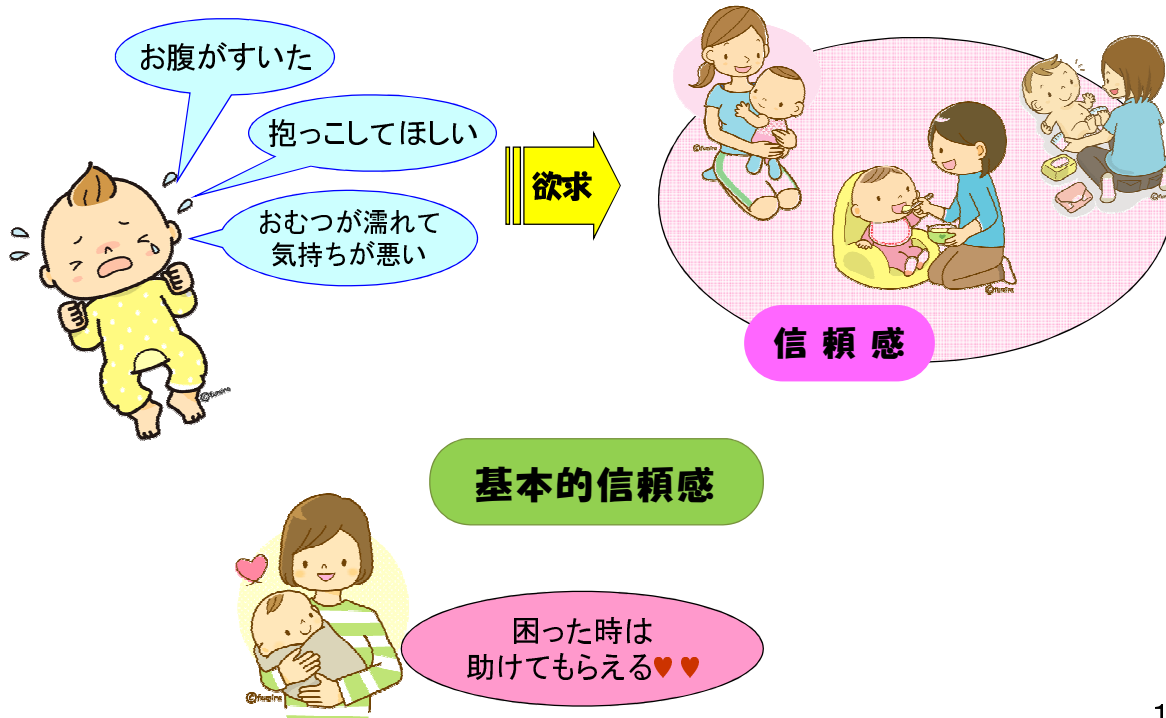
準備物	<ul style="list-style-type: none"> <li>● A5程度の色画用紙</li> <li>● 色マジック (数色)</li> <li>● 飾り付け用の色紙、リボン、シールなど</li> </ul>
-----	---

時間	進行内容
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が子へのメッセージを色画用紙に記入。</li> <li>自由に飾り付けをする。</li> <li>事前に知らせて、写真を持参してもらい色画用紙に貼ってもよい。</li> <li>マジックは好きな色を選べるように数色準備。</li> <li>最後にアンケートを記入してもらって終了。</li> </ul>

5. 「子育て支援プログラム・幼児期」パワーポイント



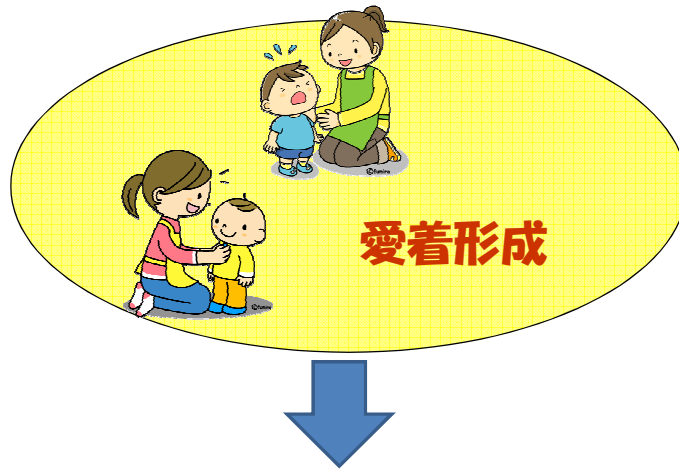
## 子どもと大人との関係①



まず赤ちゃんが生まれてから、人とどのように関係を作っていくかをみてみましょう。

- ★生まれたばかりの赤ちゃんは、泣くことで
- ★「おなかがすいた」
- ★「おむつが濡れて気持ちが悪い」
- ★「抱っこしてほしい」という
- ★欲求を伝えます。
- ★赤ちゃんが泣き、大人が世話をすることで、
- ★人に対する信頼感が芽生えます。これを
- ★「基本的信頼感」と呼びます。
- ★信頼感が芽生えると
- ★「困ったときに助けてくれる人がいる」という信念をもつことができます。

## 子どもと大人との関係②



大人との関わりを喜ぶ一方  
見知らぬ人には人見知りをするようになる

2

- ★赤ちゃんが「泣く」と「世話をする」という繰り返し、
- ★また、赤ちゃんが「笑う」と「笑い返す」という繰り返しにより、
- ★特定の大人との間に情緒的な絆が生まれます。これを
- ★「愛着」と言います。
- ★6か月くらいになると、愛情を込めて関わる大人とのやりとりを楽しめるようになります。  
また、初めての人や知らない人に対して、泣いたり避けたりする「人見知り」が始まります。  
これは特定の大人との愛着関係が形成されたからこそ起きる現象です。

## 自己意識の発達

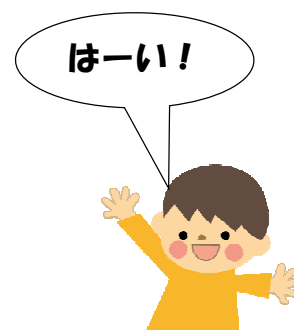
### おおむね1歳3か月頃

- 自分の名前を呼ばれると返事をする  
(他の名前では返事をしない)

### 自己と他者の区別がつく

- 私は私である(親とは異なる存在である)  
ということに気付く

### 自我の芽生え



3

★おおむね1歳3か月頃になると、

★自分の名前を呼ばれると返事をするようになります。  
他の名前では返事をせず、

★自分と他者の区別がつくようになります。

★またこれまでは一体の存在であった、「親」と「自分」が違うと存在であるということに気づきます。これを

★「自我の芽生え」と言います。

次にこの自我の芽生えの仕組みについて説明をします。

# 自我の芽生え

## 1歳3か月頃

- 歩行ができるようになり**探索行動**が盛んになる



自分でやってみたい さわってみたい

### 自発性の目覚め

- 自分の意図と親の意図が必ずしも一致しない経験



4

★ 1歳3か月頃になると

★ 歩行が完成し、自由に動けるようになります。

愛着関係を形成した大人を安全基地として、気になるものを見たり、触ったりするようになります。

驚いたり、怖いものに会ったときには大人のもとに戻り、落ち着くとまた新しい物を見たり、触ったりするようになります。

この「見る」「触る」という行動を「探索活動」と言います。

この探索活動を積極的に行う子どももいれば、慎重に探索活動を始める子どももいます。

★ また、いろいろなことを自分でやってみようという気持ちにもなります。

★ 一方、これまで一体の存在と思っていた親と自分の「やりたいこと」が一致しない経験が出てきます。

自分という存在をより強く意識するようになっていきます。

★ 少しずつ言葉がしゃべれるようになってきた子どもは、ここで「いや」という言葉を言ったりするようになります。

## 親にとっては？

- これまで素直に自分のいうことを聞いていたのに……



- いたずらをするようになる



- 「いや」「自分でやる」の連発 そして泣く



5

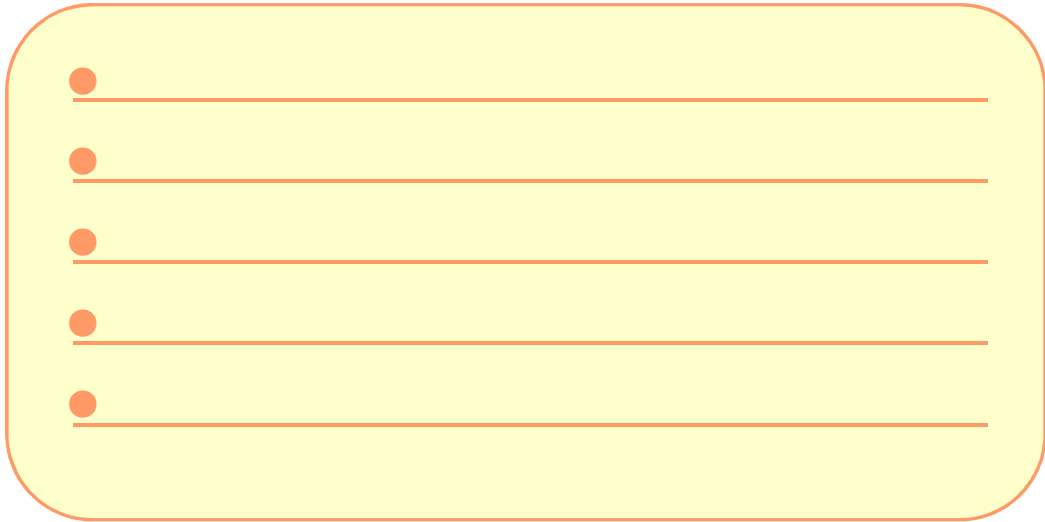
★親にとっては、これまで素直に自分の言うことを聞いていた子どもが反抗的な行動をとるようになり、戸惑うようになります。

★また、勝手にいろいろなところに行ったり、触ってほしくないものを触ったりする「いたずら」が増えます。

★「いや」「自分でやる」という言葉が多い割に、できなくて泣くので困ってしまいます。

## 我が子の「イヤイヤ！」

「じぶんでやる」や「ダダこね」  
について書き出してみましよう



6

★ここで、みなさんのお手元にあるワークシートに、どんなときにお子さんの「じぶんでやる」という言葉が出てくるか、またどんなときにダダをこねるかを書き出してみてください。

(時間5分程度 様子を見ながら決める)

同じグループの人で、お名前、お子さんの性別、年齢など簡単な自己紹介をしてください。

そのあと、ご自分の書いた内容について紹介してください。

(15分程度(少々の脱線も可))

(終了を告げてから)

どうだったでしょうか。  
お子さんと同じ場面や、違う場面いろいろあったのではないのでしょうか。

(目的は自分の子ども一人の現象ではないということに気付くこと、また共感し合うこと)



## 子どもの気持ちになると

- これまで素直に自分のいうことを聞いていたのに……

→自分でやりたいことがあるのに口を出される



- いたずらをするようになる

→自分で確かめているのに！



- 「いや」「自分でやる」の連発　そして泣く

→自分でやりたい、できると思っていたのに！



7

さきほどのスライドを子どもの気持ちになって考えてみましょう

- ★「自分で何かをしようとするとお母さんが私の気持ちと違うことを言うの」と思っているかもしれません。
- ★また、勝手にいろいろなところに行ったり、触ってほしくないものを触ったりする「いたずら」ですが、子どもにとっては自分で物事を確かめている探索行動なのです。  
この探索行動で子どもは世の中のいろいろなものごとについて知っていくのです。
- ★「いや」「自分でやる」という言葉が多い割に、できなくて泣くのは、自分でできると思っていたのに、できなくてショックだったからなのです。

## 「いや！」 「しぶんでやる！」

### 自己主張の姿

- 自発性が順調に発達している

### 自発性とは

- 自分で考え、自分で判断し、人に頼らずに行動する力
- 今後の人生を切り開いていく力

### 発達に必要な通過点

8

・ここで「いや」や「自分でやる」ということについて少し解説をします。

★「いや」「自分でやる」の連発は自分でやりたいという「自発性」が順調に発達しているというを表しています。

★また、自発性とは「自分で考え、自分で判断し、人に頼らずに行動する力」「今後の人生を切り開いていく力」であり、

★人間の発達に必要な通過点になります。

・みなさんは、今自分でいろいろなことを自分の意思でしていますが、この発達があったからこそできることなのです。

## あなたが母親ならどのように 子どもに声をかけますか

### <2歳10か月のAちゃん>

お母さんと出かけるために着替えをしていました。電車の時間も迫っていたため、洋服のボタンはめに手間取っているAちゃんに「お母さんがやってあげる」というと「自分でやる」と言って聞きません。

電車は次の時間に乗ることにしましたが、とうとう自分でできなかつたAちゃんはお母さんのところに泣きながら「やって」と言ってきました。

9

・ではあなたは次の場面ではどのようにするでしょうか。

★（例文を読み上げる）

お手元のワークシートの2番目に書き込んでみてください。

（3分程度様子を見る）

（机間巡視）

（どのようなことを書いているかをさりげなくチェックする。いくつかタイプの違うものを選び出してく。）

では、いくつかどんなことを書いたか、言っていただきましょう。  
（表情をよく見て、話したそうな人を指名する。無理強いはいしない）

## 自立と甘えの間を揺れ動く時期

### ●子どもの気持ちを受け止めて関わることが大切



### ●大人の都合を優先していないか考える



10

・ではこの時期の解説をしてみましょう。

★まず、この時期は「自分でやりたい」という自立の気持ちと、「大人に甘えたい」という気持ちで揺れ動く時期になるということが大前提になってきます。

★この時期には「やりたい」という気持ちと「やはりできないからやって欲しい」という甘えの気持ちを受け止めることが大切になってきます。

★また「大人の都合を優先していないか」についても考える必要が出てきます。

★出発の時間などは余裕を持っていれば、子どもをせかすことが減るかもしれません。

・洋服なども、大人からみるとちょっと首をかしげたくくなるような組み合わせのものを着たがるお子さんもいますが、組み合わせが変と思うのは大人であって、子どもは自分が選べて満足なのです。

## 子どもの気持ちを受け止めるとは



できると思っていたのに、できなかった

ショック..



「大丈夫よ お母さんと一緒にやってみよう！」

「できなくて悔しいね、今度はきっとできるよ！」



気持ちを受け止めることで「この次にやってみよう」という**意欲**や**自信**につながる

11

・一口に「子どもの気持ちを受け止める」と言っても難しいですね。

★子どもは大人のやることをよく見ている、自分でもできると思うのですが、自分が思うほどにはうまく身体を使えません。これは、身体機能が未発達なため、思うとおりの動きができないのです。

★しかし、子どもの視点から見ると自分でできると思っていたのにできないということでショックをうけます。

そこで、泣いて大人に訴えます。子どものやりたくてもできなくて混乱している気持ちを落ち着かせるための言葉を伝えます。

★「できなくて悔しいね、今度はきっとできるよ」「お母さんと一緒にやってみよう」などです。

★この気持ちを受け止めることで「この次はやってみよう」という意欲や自信につながります。

## 頭ごなしに叱ると・・・



「できなかった」  
「ダメな子なんだ」



自己評価が低くなり、自信をなくす



「できないから、やらない」  
「失敗したら怒られるからやりたくない」



12

- ★でもつい「だからいったでしょ」「やってあげようって言ったのに、自分でやるって言うからよ！」など頭ごなしに叱ってしまうと、
- ★「自分はダメな子どもなんだ」と
- ★自信をなくします。
- ★また、自分はできないという気持ちを持つことで、自己評価が低くなります。
- ★その結果「できないから自分ではやらない」「失敗したら怒られるからやりたくない」という気持ちを
- ★持つようになります。  
また、自発性が発揮できなくなります。